

品質表示
(セット内容により含まれない製品もあります)

〈本体〉	ディープパン	フライパン
表面加工	内外面：フッ素樹脂加工	
材料の種類	本体：アルミニウム合金 はり底：ステンレス鋼（クロム18%） （底の厚さ2.5mm（はり底含む））	
寸法	20cm	22cm
	24cm	20cm
	22cm	24cm

その他の材料/ハンドル：フェノール樹脂（シリコン塗装）

〈フタ〉※TM-115Rのみ

品名/強化ガラス製器具
強化の種類/全面物理強化
フタ金属部/ステンレス鋼
ツマミ/フェノール樹脂（耐熱温度140℃）

ガラス蓋の使用上の注意

- 蓋本来の用途以外には使用しないでください。
- 本品は耐熱ガラスではありません。
- 落とし蓋として使用はしないでください。
- ガラス蓋は落としたり、ぶつける等の衝撃を与えないでください。割れる原因になります。
- ガラス蓋が熱くなっている時、濡れたふきんでふれたり、水をかける等の急激な温度変化を与えると割れる原因になります。
- ガラス蓋を鍋からずらして使用しないでください。蓋が部分的に加熱し破損の原因になります。
- 電子レンジやオープンには使用しないでください。
- 傷が原因でガラスが破損することがあります。スチールたわし、みがき粉等の使用は避けてください。
- ガラス蓋が破損した場合、破片が細片となって激しく飛散する特性があります。
- 割れたガラスを取り除く際は、手を切らないように注意してください。
- つまみのネジをしめすぎないでください。
- ガラス蓋にひびやキズが入った場合は使用しないでください。

ガラス蓋：全面物理強化ガラス

全面物理強化ガラスとはガラスに加工（加熱・急冷）を加えることで表面付近の分子が通常の板ガラスよりも密になり、耐熱強度・耐衝撃強度が高くなったガラスです。また割れた場合、通常ガラスですと破片でケガをする恐れがありますが、強化ガラスは破片が粉状になりケガをしにくいという特徴があります。身の回りではビルのガラスドア・自動車・エスカレーター・家具等に幅広く使用されています。ごくまれに全面物理強化ガラスは表面が強化されているため、細かいキズがつくなどしてバランスがくずれると外部からの衝撃が加わってないにもかかわらず、瞬間的に音と共に破裂する恐れがありますので使用上の注意を守ってください。

MADE IN CHINA



東京日本橋「たひめひけん」三代目 茂出木 浩司

IH対応ディープパン・フライパン
共通取扱説明書

この商品は家庭で調理するために使うものです。
ご使用の際には取扱説明書をよく読んでからご使用ください。
不適切な取扱いは事故につながります。
この取扱説明書は必ず保管してください。

この商品は下記の加熱器具でご使用頂けます。



100V・200VのIH調理器にご使用できます。

商品、取扱説明書の不明な点についてのお問い合わせ先

Tamahashi co., Ltd.

輸入販売元 株式会社 タマハシ

〒959-1241 新潟県燕市小高4549-6
TEL 0256-63-9545 FAX 0256-66-2252

使用前の注意

- ご使用前には必ず、各部に異常がないことを確認してください。取っ手のガタつきや変形などが生じている場合には使用しないでください。
- ネジがゆるんでいる場合は、よく締めてから使用してください。その際、締めてもゆるみが直らない場合は使用を中止してください。
- 最初に使用する時は食器用中性洗剤を付けて、スポンジ等で十分に洗い、すすいでください。次に乾いた布などで水分を拭き取ってから使用してください。
- 品質には万全を期していますが、万一不具合のあった場合には、使用しないで(株)タマハシお問い合わせ先までご連絡ください。

使用上の注意

- 調理以外の用途には使用しないでください。
- 調理中（加熱中）は絶対にその場を離れないでください。離れるときは必ず、加熱をやめてください。
- 調理中に油煙が多く出たら加熱をやめてください。油が発火して火災の危険があります。
- 天ぷらなどの揚げ物料理には使用しないでください。油を使用する場合は、油の温度を200℃以上にしなさい。油の過熱により火災の原因になります。
- 急激な衝撃を与えたり、空焚きはしないでください。空焚きは火災や本体の変形、取っ手の破損ややけどの原因になります。万一、空焚きをしてしまった場合は水などで急に冷やさず、自然に冷やしてください。
- 加熱中や加熱直後は本体や取っ手が熱くなっていますので火傷に十分注意してください。つかむ際には鍋つかみやふきんを用いて、すべらないようにしっかり握ってください。また、幼児は遠ざけ、絶対に触らせないようにしてください。
- フチまで水等を満たした状態で使用しないでください。
- 本品は加熱機器の中央部にのせて、安定させた状態で使用してください。
- 取っ手がゆるんだら使用しないでください。脱落してやけどの危険があります。
- ネジを締めてもゆるみが直らない場合は使用を中止してください。
- 取っ手のガタつきや破損に対し、改造や応急処置等の手当てをして使用することは危険ですのでやめてください。
- 本品は加熱機器の中央部にのせて、安定させた状態で使用してください。
- 調理中、時々料理をかきまぜてください。焦げつくことがあります。
- 火にかける際は、底面の水滴は拭き取ってください。
- 吹きこぼれ、煮こぼれしないように使用してください。火が消えてガスが漏れたり、加熱機器などが故障する原因となります。
- 急冷しないでください。変形する恐れがあります。
- ストーブや七輪など炭火の上では危険ですから使用しないでください。
- 電子レンジ・オープン・食洗機では使用しないでください。
- 調理後など本体が熱いうちに、紙などの燃えやすいものの上には置かないでください。
- 内容を他の容器に移す際には本体外面への伝いもれや飛び散りに注意してください。
- アクの強い食材（ごぼうや山菜など）を調理すると調理の汁などが黒く変色することがあります。アク抜きを十分に行ってから調理してください。

【より長くお使いいただくために】

- ふっ素樹脂塗膜を長持ちさせるためにも、できるだけ中火以下の火力でご使用ください。
- 金属製のヘラなどの調理器具を使用しないでください。ふっ素樹脂塗膜を傷つけます。木や竹、プラスチック製などの専用調理器具をご使用ください。
- 焼き物などの調理に際しては、ご使用ごとに薄く油を引くと、こびりつきにくさが長持ちします。

【ガスコンロで使用するときは】

- 極少量の水を入れて沸騰させないでください。水が入っていない部分が高温になり変色が生じます。
- 鍋はコンロの中央部に乗せ、安定させて使用してください。片寄せた状態で置かれると取っ手が加熱され破損することがあります。
- 炎が底面からはみださないように火力を調節してください。炎が大きいと取っ手が加熱されて危険です。樹脂部や木柄は燃焼して異臭がします。脱落の危険もあります。特に径の小さい鍋は充分注意してください。



【クッキングヒータで使用するときは】



- 効率良く加熱して頂くために、底についた水滴はきれいに拭き取ってください。
 - 鍋はヒータの中央部に置いてください。
 - 普段ご使用の際、火力は必ず中（中火）以下で使用してください。最大火力で加熱しますと、変形などの原因になり、火傷や火災などの事故につながるおそれがあります。また、加熱中にブーンやジーといった音が生じることがありますが、これは本体が共振しているためで、製品の異常ではありません。
 - 落下や空焚き等で変形やガタつきが生じた場合は使用しないでください。
- ※お使いのクッキングヒータの取扱説明書にそって正しくご使用ください。

⚠注意 電磁調理器でご使用の際に安全のために必ず守ってください。

- 3kw以上の電磁調理器で使用しない
出力が強すぎるので、底面が変形したり、損傷したりする場合があります。
- 適切な出力で使用
出力は、「中」以下でご使用ください。とくに200Vの電磁調理器は、「強」（最高出力）にすると短時間で空焚き状態になり、底面が変形したり、損傷したりする場合があります。底面が変形すると、温度コントロールが正常に働かなくなることもあり、火災の恐れもあり危険です。
- 予熱を与えない
電磁調理器はスイッチを入れたら、最大出力で急激に加熱します。ガスコンロで調理するときのように予熱を与えずに空焚きになりますので、予熱は与えないでください。とくに少量の油を引いて加熱すると、短時間で発火点に達して引火する恐れがあり危険です。調理の際は、すぐに調理を始められるように準備を整えてから、スイッチを入れるようにしてください。また、スイッチを入れてから、すぐに出力を「中」以下に調節してください。

お手入れについて

- 使用後は食器用中性洗剤をつけて、スポンジ等で洗い、水気を拭き取ってよく乾燥させてください。お手入れが不十分だと白い粉状のものが付着してきますが、水道水中の微量成分が固まったもので、性能および衛生上の問題はありません。
- 塩分や酸等を含んだ汚れを付着したままや濡れたままの状態での放置したり、湿気の多い場所での保管はしないでください。ふっ素樹脂塗膜の損傷や腐食の発生原因となります。
- こげつきなどをおとす場合は金属製の固いものを使用しないでください。熱湯に浸してこげつきを柔らかくしてから取り除いてください。
- 調理後は本体内に内容物を保存せず、他の容器に移してください。
- 表面を傷つけますので洗う際は、スチールたわし・磨き粉は使用しないでください。また、酸性およびアルカリ性のものの使用は避けてください。
- つけ置き洗いはしないでください。塗膜や取っ手の劣化の原因になります。洗った後は取っ手内部に溜まった水を抜き乾燥させてください。